20047

アブレーションにおける患者と医療従事者の被ばく線量の把握

[1]JA 愛知厚生連豊田厚生病院

村山　和宏[1]、小林　誉幸[1]、小林　晋也[1]、小寺　直人[1]、鷹羽　正悟[1]、伊藤　友彰[1]

【目的】当院では、年間 100 例以上の経皮的カテーテル心筋焼灼術(アブレーション：ABL)が行われている。ABL の種類によっては、長時間の透視となることが多く、患者、医療従事者の被ばく線量を把握することが重要である。今回、Af と Af 以外の ABL に分けて、被ばく線量について集計したので報告する。【方法】ポケット線量計は、術者・看護師の鉛エプロン鎖骨の高さで測定した。患者皮膚線量について、面積線量計の装置表示値、透視時間を集計し、Af、Af 以外で比較した。【使用機器】血管撮影装置(SIEMENS AXION Artis dBC)、ポケット線量計(ALOKA MYDOSE MINI PDM-112,117)【結果】Af の透視時間、面積線量計値、ポケット線量計値は、Af 以外の約 2 倍の値を示した。【結論・まとめ】検査における被ばく量を実測、数値化することで、被ばくに対する医療従事者の意識が高まった。今後も、線量把握・管理をし、医療従事者及び患者へ被ばく線量低減を促していきたい。